

長久手市では、「農のある暮らし、農のあるまち」を目指す田園バレー事業の一環として、1年を通じて農作業を学ぶ「長久手農楽校」を開校しています。農楽校では、農作業だけでなく、販売実習や保育園のいもほり遠足などの手伝いも行っています。

農楽校は、農を通じて交流し、その輪を地域全体に広げていただくことも目的の一つとしており、修了後に有志で団体を作り、仲間と農業を楽しんでいらっしゃる方々も多くいらっしゃいます。

1月25日、平成28年度長久手農楽校の修了式が、あぐりん村で行われ、基礎コース22人、農力向上コース11人の方に修了証をお渡ししました。

修了式を終えた市長が、政策秘書課職員に話した内容です。



農楽校修了生を代表してあいさつをされた川端亜矢子さんの言葉が、素晴らしかったので、みなさんに、ぜひ紹介したいと思います。

私は、基礎コースで2年、向上コースで1年の3年間、農楽校で勉強させていただきました。この3年間だけでも、気候の変化が1年として同じ年ではなく、野菜作りというのは、今年、失敗したことを即、来年に活かせるという簡単なものではないことを知りました。自然と付き合うことの難しさ、また、先生方が積み重ねて来られた経験の重み、偉大さをしみじみと感じました。

講義では、それぞれの野菜に合った気候の頃に種を蒔き、野菜が自ら育つことができる環境に置いてやるのが大切だと教わりました。実習では野菜の根が、水や養分を求め、自ら伸びようとするので、過剰に水や肥料を与えて、苗を甘やかしてはいけないと教わりました。

これらのことは、いま私自身が、毎日奮闘しております子育てにおいて、子どもとの関わり方、見守り方をも教えられた気がしました。

また、農楽校の先輩方からは、野菜作りだけでなく、子育てのこと、趣味のこと、収穫した野菜をいかに調理して食べきるかなど本当にたくさんのことを教わり、感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも、1人で自分の畑を耕すのが辛い時は、先生方、先輩方に会いたくなくとも、どうぞ変わらぬご指導をよろしくお願い申し上げます。

(あいさつ文は、一部を省略しています)

今の時代は、スイッチ一つでお風呂が湧いたり、部屋が暖かくなったり、涼しくなったりします。そんな便利な時代だからこそ、私たちは自然を通じて、何もかもが自分の思い通りにはならないことを学ぶことが必要だと思います。

*******平成29年度農楽校の受講生募集について*******

基礎コースと、基礎コースを修了した人を対象にした農力向上コースがあります。

【対象】 市内在住者（基礎コース30人、農力向上コース10人）

【受講期間】 平成29年4月から平成30年1月まで

【申込期間】 平成29年2月21日（火）まで

【申込先】 みどりの推進課（電話0561-56-0620）。先着順。

※詳しくは、広報ながくて2月号19ページをご覧ください。

～川端さんのあいさつを聞いて～

「辛い時は、先生方、先輩方に会いたくなると思います」

社会人になってから、「辛い時に会いたい」と思う人に、私は何人と出会えただろうと考えてしまいました。

農楽校は、他の受講生との共同作業ですから、自分のペースで作業ができないなど、自然だけでなく、ほかにも思い通りに進まないことがたくさんあったに違いありません。農作物が出来上がった達成感だけでなく、そのときは「面倒だな、わずらわしいな」と思うような経験もあったからこそ、辛いときに会いたくなるような人間関係が築けたのだと思います。市の事業を通して、こうした出会いがあったことに、なんだかうれしくなりました。